

平成26年度病虫害発生予察予報第12号（3月）

平成27年3月4日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
抑制・促成キュウリ	べと病 うどんこ病 つる枯病 褐斑病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並 やや多 やや多～多 やや少～平年並 少～やや少 平年並～ やや多 多
促成ナス	灰色かび病 うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ ホコリダニ類	やや多 少 やや多 やや多 少 平年並 多
促成ピーマン、シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ タバココナジラミ	平年並 多 平年並～ やや多 少～やや少 やや少～平年並 平年並～ やや多
促成トマト	すすかび病 葉かび病 うどんこ病 タバココナジラミ	多 多 やや多 少

I 気象予報（高松地方気象台 2月26日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞2月28日から3月27日

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1ヶ月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	20	40	40
		降水量	20	40	40
		日照時間	40	40	20

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	20	50	30
2週目		20	40	40
3～4週目		30	30	40

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：2月28日（土）～3月27日（金）

1週目：2月28日（土）～3月6日（金）

2週目：3月7日（土）～3月13日（金）

3～4週目：3月14日（土）～3月27日（金）

II 病虫害発生予想

1 抑制、促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。いずれの地域でも平年より少なめの発生面積であったが、県中央部では発病程度の高いほ場も見られた。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されていることから、発生面積が増加すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県西部では平年並の発生面積であったが、県中央部ではやや多め、県中西部では発生面積が多く、県中央部では発病程度の高いほ場も見られた。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、新たな発病は少ないと考えるが、既発ほ場を中心に、やや多めの発生が続くと考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。ガッテン乳剤、プロパティフロアブルを使用した場合、菌叢の褐変、消失は見られないので防除効果は上位葉への進展など、未発生葉への進展状況で判断する。

3) つる枯病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多～多

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られ、県中央部、中西部で発生面積が多く、程度の発病程度の高いほ場も見られた。県西部では少発生であったが、県下全域で増加傾向にある。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、発生面積が増加すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

4) 褐斑病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや少～平年並

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、県中央部、西部では平年並、県中西部では少発生であった。県中央部では多発ほ場も見られたが、県中西部、西部では発病程度も低かった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、発生面積が増加すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

5) 黄化えそ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：少～やや少

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県下全域で少発生であるが、既発ほ場では増加傾向にある。
- (2)今後、気温の上昇にともない、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が盛んになることから、既発ほ場を中心に発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1)ミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、本病の発生株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

6) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並～やや多

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中西部、西部では少発生であったが、県中央部では多発生であった。
- (2)今後、気温の上昇にともない、増殖が盛んになると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時（発生初期は生長点付近に多い）の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

7) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

- (1)巡回調査では県中西部で平年並の発生面積、県西部では少発生であった。県中央部では多発生であったが、寄生株率が高いほ場は見られなかった。
- (2)気温の上昇にともない増殖が盛んになると考えられるため、既発ほ場では密度が増加すると考えられる。

対 策

- (1)タバココナジラミは上位葉に卵を産みつけるので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心にウララDF、コルト顆粒水和剤などで防除を行う（本県全域に分布していると思われるタバココナジラミバイオタイプQは合成ピレスロイド剤、ネオニコチノイド剤の防除効果が低い）。

2 促成ナスの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県東部では発生面積が多かったが、発病率の高いほ場は見られなかった。県中央部、西部では少発生であった。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、多発条件にな

るが、気温の上昇にともない、ハチによる交配が中心になると思われるため、発生面積は減少すると考えられる。

対 策

(1)ハウス内湿度の低下に努めるとともに、罹病果をほ場外に持ち出し処分する。

2) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：少

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中央部では発生面積が多かったが、発病程度はやや低く、県東部、西部では問題となる発生は見られなかった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黒枯病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県東部では多発生、県中央部では平年並、県西部では少発生であったが、いずれの地域でも平年に比べ発病程度は高かった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、やや多めの発生が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底する。

(2)罹病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) すすかび病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県東部、西部では平年並の発生であったが、県中央部では多発生であった。いずれの地域でも発生面積が増加傾向であり、発病程度の高いほ場も見られた。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、病勢が進展すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底する。

(2)罹病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：少

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られたが、発生量の多いほ場は見られなかった。
- (2)ほとんどのほ場でタバコカスミカメが導入されているため、少発生が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中央部では発生面積が多かったが、発生程度が高いほ場は無く、すす病の発生も見られなかった。
- (2)ほとんどのほ場でタバコカスミカメが導入されているため、密度の増加はないと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

7) ホコリダニ類

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

- (1)巡回調査では県東部では少発生であったが、県中央部、西部では多発生であった。
- (2)天敵、農薬による防除が困難な害虫のため、既発ほ場を中心に多発傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底する。
- (2)薬剤防除を行う場合、生長点付近を中心にたっぷりと薬剤散布を行う。また、発生株だけでなく、周辺の株も防除を行う。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県東部ではやや多めの発生であったが、県中央部、中西部では平年並の発生であった。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。県東部では平年並、県中央部、中西部では平年より多めの発生面積であった。また、いずれの地域でも平年に比べ発病程度が高かった。
- (2) 向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、多めの発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並～やや多

根 拠

- (1) 巡回調査では県東部で多発生であったが、県中央部、中西部では平年より少なめの発生であった。
- (2) 向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：少～やや少

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で見られた。県東部では平年並の発生であったが、県中央部、中西部では少～やや少発生であった。
- (2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、天敵の数が減少しているほ場では密度が増加する恐れがあるので注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

5) ヒラズハナアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや少～平年並

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で見られた。県東部では寄生花率が高いほ場も見られたが県中央部、中西部では問題となる発生量でなかった。

(2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、天敵の数が少ないほ場では密度が増加する恐れがあるので注意する。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並～やや多

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で見られた。県中西部ではやや多めの発生であったが、県東部、中央部では平年並～やや少なめの発生であった。

(2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、天敵の数が少ないほ場では密度が増加する恐れがあるので注意する。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) すすかび病

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

(1) 巡回調査では一部のほ場で発生が見られた。平年より多めの発生であったが、下葉中心の発生であった。

(2) 向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、多発傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。また、本病は葉かび病に酷似するので、防除薬剤の選定に注意する。

2) 葉かび病

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

(1) 巡回調査では一部のほ場で発生が見られた。平年より多めの発生であったが、下葉中心の発生であった。また、巡回調査において、CF桃太郎ファイトなど、葉かび耐病性品種での発生も確認されているので注意する。

(2) 向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、多発傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。また、本病は葉かび病に酷似するので、防除薬剤の選定に注意する。

3) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多

根 拠

- (1)巡回調査では一部のほ場で発生が見られた。平年より多めの発生であったが、下葉中心の発生であった。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、病勢の進展は見られないと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。また、本病は葉かび病に酷似するので、防除薬剤の選定に注意する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：少

根 拠

- (1)巡回調査では一部のほ場で発生が見られ程度であった。
- (2)気温の低下にともない増殖が盛んになると考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

こうち農業ネットサービス※

- ・携帯電話を使った病害虫関連情報 (どなたでも利用可能です)

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info> (Iモード)

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報 (ezweb)

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ヤフー)

- ①病害虫発生予察情報 (概要)

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります